

Program

第 1 部

1.カーテンアップ！（作曲：A.リード）

カーテンアップとは、ミュージカルやオペラなどの舞台において幕が上がる動作を指す言葉であり、この語をタイトルとした吹奏楽作品は数多い。その多くが、舞台の幕開けを思わせる華やかで祝祭的な性格を備えている。吹奏楽の父 A.リードによる《カーテンアップ！》(1990) は、6つの場面から構成されている。全曲は切れ目なく演奏され、場面が次々と移り変わりながら、終結部では冒頭のリズムが再び現れて華やかに幕を閉じる。

(管弦打楽器専攻4年 木村瞭友)

2.日本民謡組曲《わらべ唄》(作曲：兼田敏)

兼田敏は、日本の吹奏楽作品の発展に大きく貢献した作曲家である。《わらべ唄》は彼の代表作の一つで、日本のわらべ唄を題材とし、全3曲から構成されている。第1曲〈あんたがたどこさ〉では、金管楽器と打楽器による力強いアンサンブルが展開され、第2曲〈子守歌〉では、木管楽器と打楽器による柔らかく温かみのある響きが印象的である。第3曲〈山寺の和尚さん〉では全楽器が加わり、躍動感あふれる音楽によって生き生きと締めくくられる。

(管弦打楽器専攻3年 佐藤栄花)

3.オセロ（作曲A.リード）

シェイクスピアの悲劇「オセロ」は、勇敢な將軍オセロと妻デズデモナーナの深い愛から物語が始まり、部下イアーゴの巧妙な策略によってオセロは次第に妻を疑い、激しい嫉妬に支配されていく。この悲劇を題材として作曲されたリードの《オセロ》は全5楽章からなる。楽章ごとに場面や登場人物の感情が描き分けられ、管楽器群の重厚な響きや打楽器の効果的な用法によって、愛と不安、そして裏切りが交錯する悲劇的な物語が鮮やかに描き出されている。

(管弦打楽器専攻2年 北尾柚笑)

指揮者・演奏者プロフィール



指揮 / 若林義人 Yoshito WAKABAYASHI,

東京都出身。京都市立芸術大学卒業。在学中に京都市交響楽団に入団、卒業と同時に安部賞を受賞。また入団当初より龍谷大学吹奏楽部の指導に当たる。

トランペットを故金石幸夫、故有馬純昭、田宮堅二の各氏に師事。京都市交響楽団トランペット奏者として25年6ヶ月在籍し、2007年の3月をもって退団。2007年度より龍谷大学吹奏楽部音楽監督兼任指揮者、相愛大学ウィンドオーケストラ指揮者に就任。他に生駒市立生駒中学校吹奏楽部など、数多くのバンド指導を手がける。

近年は、ジャパン・プラス・コレクション、プラスパラダイス大阪、プラス・スカラース大阪、ウィンドアンサンブル「奏」等に客演指揮者として招かれ、指揮者としての活動も精力的に行っている。また龍谷大学吹奏楽部を指揮し、金賞15回、銀賞9回受賞。2011年には全日本吹奏楽連盟より永年出場指揮者表彰を受賞。

現在、龍谷大学吹奏楽部音楽監督兼任指揮者、相愛大学非常勤講師、龍谷シンフォニックバンド主宰、大津シンフォニックバンド首席客演指揮者、21世紀の吹奏楽「響宴」会員。エリザベト音楽大学講師として2025年度より吹奏楽の授業を担当。



演奏/ エリザベト音楽大学ウィンドアンサンブル

エリザベト音楽大学ウィンドアンサンブルは、管楽器、木管楽器、打楽器を専攻する学生によって結成された本格的なシンフォニックバンドです。レパートリーはジャンルを問わず、ジャズ、吹奏楽のオリジナル曲、オーケストラ作品のアレンジ曲、ポップスなど多岐にわたります。卒業後にプロのバンド奏者や指揮者を目指すバンドメンバーにとって、このバンドは音楽の技術を向上させ、貴重な音楽経験を積み絶好の機会となっています。

第 2 部

4.高度な技術への指標（作曲：河辺公一）

河辺公一による《高度な技術への指標》(1974) は、1974年全日本吹奏楽コンクール課題曲として題名が示すとおり、各楽器の技術向上と音楽表現の新たな可能性を提示することを目的として作曲された。明快で推進力のあるリズムを基調とし、聴き手にとっては親しみやすいフレーズや旋律が展開される一方で、演奏者には高い集中力と確かな演奏技術が求められる。

(管弦打楽器専攻2年 丸平亜美)

5.楽器紹介のための「小さな世界」(作曲：R.M.Sherman,R.B.Sherman／編曲：郷間幹男)

《小さな世界》は、ディズニー映画の音楽を数多く手がけたシャーマン兄弟によって作曲され、ディズニーを代表する楽曲の一つとして広く知られている。本日は、吹奏楽で用いられるさまざまな楽器の音色やイメージを知るのにふさわしいアレンジで演奏する。この編曲では、曲の進行に沿って各楽器が登場し、それぞれの音色や特徴が示されることで、楽器の紹介と《小さな世界》の音楽とが自然に結びつく構成となっている。

(管弦打楽器専攻3年 竹森結花)

6.ディズニー・メドレー・リターンズ(編曲：星出尚志)

吹奏楽ポップスの分野で知られる New Sounds in BRASS (通称 NSB) の《ディズニー・メドレー》は、1981年に岩井直博のアレンジが出版されて以来、長く親しまれてきたシリーズである。《ミッキー・マウス・マーチ》《小さな世界》などの楽曲に加え、《ララレー》(「わんわん物語」) や《美女と野獣》を、ワルツ、スウィング、ディキシーなど多彩な編曲様式と随所に配置されたソロによって、ディズニー音楽の幅広い表情が描き出されている。

(管弦打楽器専攻3年 森友人)

7.私のお気に入り（作曲：R.ロジャース／編曲：宮川彬良）

《私のお気に入り》は、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の中でも、特に親しまれている楽曲の一つである。本日演奏する吹奏楽版では、軽快なリズムと豊かなハーモニーが加わり、各楽器の音色が旋律を受け渡ししながら、多彩な表情で楽曲を彩る。親しみやすさの中に、編曲上の工夫やアンサンブルの魅力が感じられる。

(管弦打楽器専攻3年 松前こゆめ)

8.ボレロ・イン・ポップス（作曲：M.ラヴェル／編曲：岩井直博）

岩井直博による《ボレロ・イン・ポップス》(1982) は、吹奏楽界の名門大学・駒澤大学吹奏楽部が、二度目の全日本吹奏楽コンクール全国大会招待演奏に臨んだ際に作曲された作品である。原曲はタイトルからも想像されるように、M.ラヴェルによる管弦楽曲《ボレロ》である。本編曲では、この原曲を素材としつつ、四拍子を基調にポップスやラテンのリズムが取り入れられ、多彩なオブリガートや装飾音を加えられている。単なるダイナミクスの拡大にとどまらず、より直接的な興奮と高揚感を生み出す点が大きな特徴である。

(管弦打楽器専攻3年 谷本萌恵)